年間授業計画

南平　高等学校　令和８年度　（３学年用）　　地理歴史　　科目　世界史演習

教　科：　地理歴史　　科　目：　世界史演習　　単位数：　4　単位

対象学年組：第　　3 学年　　1 組～　8 組

教科担当者：

使用教科書：　　世界史探究「詳説世界史」　　）

教科　地理歴史　　の目標：

【知識及び技能】　現代社会の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】　地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて考察する力や。考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】　地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目　世界史演習　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	世が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	世が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	A単元「ヨーロッパ世界の変容と展開」「東アジア世界の展開とモンゴル帝国」 【知識及び技能】 10～12世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解する。 モンゴル帝国がどのように成立し、解体したのか、そして帝国の支配は社会にどのような影響を与えたのかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 「清明上河図」などの図像資料や荘綽『啓劇編』などの資料をもとに、宋代の経済発展が社会に引きおこした変化を多面的・多角的に考察し表現する。 モンゴル帝国の最大領域を示す地図や「混一疆理歴代国都之図」などの図像資料をもとに、モンゴル帝国の成立世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 10～12世紀の東アジアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組む。 モンゴル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組む。	・指導事項 ○10～12世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解する。 ○モンゴル帝国がどのように成立し、解体したのか、そして帝国の支配は社会にどのような影響を与えたのかを理解する。 ・教材 「世界史探究　詳説世界史」 ・一人１台端末の活用　等 ・教材 「世界史探究　詳説世界史」 ・一人１台端末の活用　等	【知識及び技能】 10～12世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解する。 モンゴル帝国がどのように成立し、解体したのか、そして帝国の支配は社会にどのような影響を与えたのかを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 「清明上河図」などの図像資料や荘綽『啓劇編』などの資料をもとに、宋代の経済発展が社会に引きおこした変化を多面的・多角的に考察し表現しようとしている。 モンゴル帝国の最大領域を示す地図や「混一疆理歴代国都之図」などの図像資料をもとに、モンゴル帝国の成立世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 10～12世紀の東アジアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 モンゴル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	B単元「大交易・大交流の時代」「アジア諸帝国の繁栄」 【知識及び技能】 モンゴル帝国解体後のアジア各地の状況について理解する。オスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ヨーロッパ人による航海と探検を示す地図やラスニカサスなどの資料をもとに、ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 アジア交易世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組む。	・指導事項 ○オスマン帝国とサファヴィー朝・ムガル帝国の興隆について理解する。 ・教材 「世界史探究　詳説世界史」 ・一人１台端末の活用　等 ・教材 「世界史探究　詳説世界史」 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 モンゴル帝国解体後のアジア各地の状況について理解している。オスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国の基礎が築かれた経緯を理解している。 【思考・判断・表現】 ヨーロッパ人による航海と探検を示す地図やラスニカサスなどの資料をもとに、ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 アジア交易世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	C 単元「イギリスの優位と欧米国民国家の形成」「アジア諸地域の動揺」 【知識及び技能】 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動がどのように展開したのかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 東南アジアの植民地化の地図やゴムのプランテーションを示した図像資料をもとにヨーロッパ各国の進出の経緯を踏まえ、南アジアと東南アジアにおける植民地化と世界経済の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 東アジアの変動についてについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組む。	・指導事項 ○19世紀後半のヨーロッパの情勢がどのように推移したのかを時代的な背景や各国の共通点・相違点も踏まえながら理解する。 ○欧米諸国の進出と日本の台頭が東アジア諸国間の関係に与えた影響を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・教材 「世界史探究　詳説世界史」 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動がどのように展開したのかを理解している。 【思考・判断・表現】 東南アジアの植民地化の地図やゴムのプランテーションを示した図像資料をもとにヨーロッパ各国の進出の経緯を踏まえ、南アジアと東南アジアにおける植民地化と世界経済の関係を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 東アジアの変動についてについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	25
	D 単元「帝国主義とアジアの民族運動」 【知識及び技能】 各列強が抱えていた国内事情とその課題を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 国際情勢を風刺した図像資料をもとに欧米列強が植民地や勢力圏の拡大を争った背景を多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 第2次産業革命と帝国主義について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組む。	・指導事項 ○独立後のブラジル・アルゼンチン・メキシコがたどった道を比較し、共通点と相違点を理解する。 ○20世紀初頭における列強体制の枠組みの変化を多面的・多角的に考察し、表現する。 ○近代的な改革を実施したにもかかわらず清朝が倒壊した原因を理解する。 ・教材 「世界史探究　詳説世界史」 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 各列強が抱えていた国内事情とその課題を理解している。 【思考・判断・表現】 国際情勢を風刺した図像資料をもとに欧米列強が植民地化や勢力圏の拡大を争った背景を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 第2次産業革命と帝国主義について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
2学期	E単元「第一次世界大戦と世界の変容」 【知識及び技能】 第一次世界大戦後に形成された国際秩序の内容やその特徴、その後の国際関係の変化について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 各国の国内情勢を写した図像資料や「十四カ条」などの資料をもとに1920年代の欧米各国における変容を多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国について自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して見通しを持って学習に取り組もうとする。	・指導事項 ○第一次世界大戦とロシア革命について理解する。 ○アジア・アフリカ地域の民族運動について理解する。 ・教材 「世界史探究　詳説世界史」 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 第一次世界大戦後に形成された国際秩序の内容やその特徴、その後の国際関係の変化について理解している。 【思考・判断・表現】 各国の国際情勢を写した図像資料や「十四カ条」などの資料をもとに1920年代の欧米各国における変容を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国について自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	F単元「第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成」 【知識及び技能】 世界恐慌が起こった背景やその影響を多面的・多角的に考察し表現する。 【思考力、判断力、表現力等】 戦場を写した図像資料や「大西洋憲章」などの資料をもとに第二次世界大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 第二次世界大戦後の国際秩序について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して見通しを持って学習に取り組もうとする。	・指導事項 ○世界恐慌とヴェルサイユ体制の崩壊について理解する。 ○第二次世界大戦と戦後の新しい国際秩序の形成について理解する。 ・教材 「世界史探究　詳説世界史」 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 世界恐慌が起こった背景やその影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【思考・判断・表現】 戦場を写した図像資料や「大西洋憲章」などの資料をもとに第二次世界大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 第二次世界大戦後の国際秩序について自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	25
	定期考査			○	○		1
3学期	G単元「冷戦と第三世界の台頭」 【知識及び技能】 米ソそれぞれの同盟網の広がりや核開発競争の経緯を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 先進国の平均経済成長率を示した統計資料や「スターリン批判」などの資料をもとに、冷戦下における東西両陣営の社会の変容を多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 冷戦体制の動揺について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組む。	・指導事項 ○冷戦の展開と動揺について理解する。 ○第三世界の台頭とキューバ危機について理解する。 ・教材 「世界史探究　詳説世界史」 ・一人１台端末の活用　等	【知識及び技能】 米ソそれぞれの同盟網の広がりや核開発競争の経緯を理解している。 【思考・判断・表現】 先進国の平均経済成長率を示した統計資料や「スターリン批判」などの資料をもとに、冷戦下における東西両陣営の社会の変容を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 冷戦体制の動揺について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	20
	H単元「冷戦の終結と今日の世界」 【知識及び技能】 旧社会主義諸国で起こった民族運動や民族対立の特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 各地の状況を写した図像資料などをもとに、今日の世界が抱えている課題の特徴や傾向を多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 今日の世界が抱えている課題について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組む。	・指導事項 ○産業構造の変容や冷戦の終結について理解する。 ○今日の世界、現代文明の諸相、地球世界の課題について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・教材 「世界史探究　詳説世界史」 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 旧社会主義諸国で起こった民族運動や民族対立の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 各地の状況を写した図像資料などをもとに、今日の世界が抱えている課題の特徴や傾向を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 今日の世界が抱えている課題について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1 合計 140